

日本製薬情報協議会

PIAJ (Pharmaceutical Information Association of Japan)

会の目的:



日本において医薬品の研究・開発を行っている会社をメンバーとする会で情報部門（情報検索とその提供、加工、情報研修などを行う部門）に属する担当者が、お互いに資質の向上を図り、所属機関の発展並びに医薬品産業の発展に貢献することを目的とした会です。

歴史:



前身はリングドック日本部会（1964年設立）で、製薬企業専用の会員制文献データベースである「RINGDOC」（現 Thomson社 Derwent Drug File）のユーザー会※でした。しかし、情報検索の普及と共に、MEDLINE、EMBASE、BIOSIS、Chemical Abstractsなど様々なデータベースを検索するようになったこと、リングドックの会員からはずれても交流を続けて行きたいという希望があったことなどから1993年7月に名称変更と会則の改定を行い、「日本製薬情報協議会」として新たに活動を開始しました。2005年には、創立40周年記念総会を北海道で開催しました。

※欧州のユーザー会としてPDRがありました。PDRは、現在では大手製薬会社を中心とした情報団体として活発な活動を行っています。<http://www.p-d-r.com/index.shtml>

※本会は、2008年情報科学技術協会「優秀機関賞」を受賞しました。

環境の変化と対応:



医薬情報を取り巻く環境が変容していく中で、情報部門の担当者に対する要求も変わってきました。インターネット等の普及により初歩的な検索はエンドユーザー（研究者、ほか）で可能となり、情報担当者に対しては情報専門家としてより緻密な検索、エンドユーザーへの教育、最先端情報入手等が求められています。

その他にも、海外の高額な製薬関連データベースへの対応などユーザー団体としての活動や複写権、情報セキュリティーに関する事項など多くの問題への対応が必要となっています。これらの課題に対処するために、お互いに情報を交換し、より多くの情報、より緻密な情報を得る機会を設ける為に活動しています。



主な活動:

①総会:

予算、行事等について討議するとともに、会員相互の情報交換の場として、フリーディスカッションや講演会を催しています。時期は、年1回、5月下旬～6月頃に行います。(開催地:金沢、札幌、新潟、静岡、仙台、長野等)

②支部会:

役員会議事の伝達、講演会等を行い、年2～3回開催しています。

③支部勉強会:

有志が集い、テーマ、開催地、時間等を勉強会幹事(当番制)と相談して、年数回開催しています。過去の事例として、下記のようなテーマで開催しました。

- ・医薬品データベースの比較
- ・PubMed、PubChemの評価
- ・コミュニケーション技術講演会
- ・情報調査関連の講演会
- ・各データベース(JdreamⅢ、MEDLINE、EMBASE、BIOSIS、CA、Derwent Drug File)のインデキシングや検索キーワードの違い。
- ・FDAホームページの利用ガイドの作成

④情報処理技術検討交換会:

会員相互の研究発表の場として、年1回、11月に行っています。特に決められたテーマは設けて無く、日常業務の中で見つけた問題点、自社で開発したシステム、インターネット等の最新情報、新規データベースの使用経験など情報に関する演題で発表し、疑問点や改善点を解決する意見交換の場、研修の場として活用されています。会員数が22社あるので、無理の無い程度に全社隔年発表をお願いしていますが、数社の共同で発表することも行われています。開催は、関東か関西で年によって異なります。



参加しませんか!

2016年8月現在21社が会員で、研究所、開発、企画、情報、特許、図書など様々な所属の方が参加しております。新しい会員も随時募集しています。入会に際して関東あるいは関西支部へ所属いただくこととなりますが、いずれの支部会活動にも参加いただくことが出来ます。

入会金:4万円、会費:4万円/年

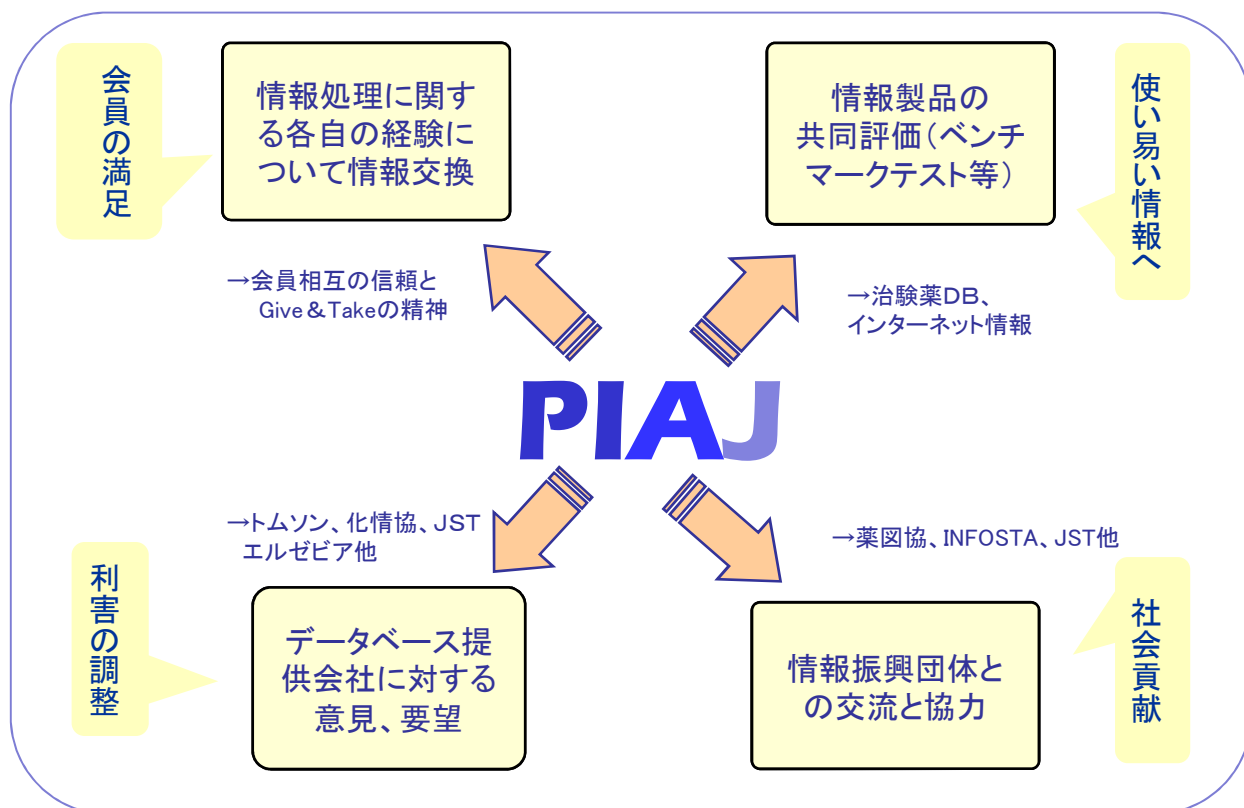
<役員>

会長	アステラスビジネスサービス	山本富美子
副会長	参天ビジネスサービス	清玄寺雅媛
総務幹事	ゼリア新薬工業	高橋和之
関東支部会長	EAファーマ	今井奈月
関西支部会長	田辺三菱製薬	今岡美穂
監査役	大日本住友製薬	西野順子

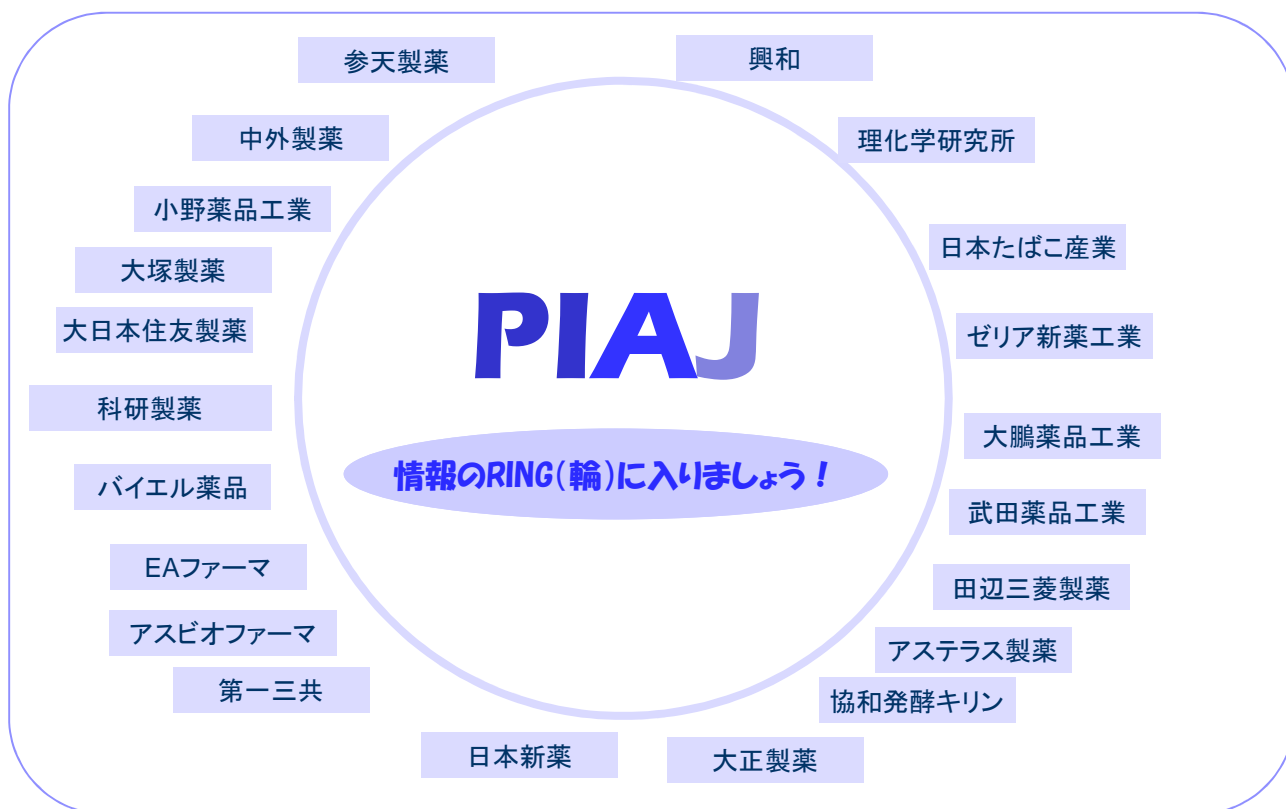
PIAJ関連サイト(<http://piaj.sub.jp/ring/>)

PIAJの活動

以下のような活動を通して、情報活動の推進と情報担当者の育成を目指しますが、情報交換の内容は他社へ公開可能な調査技術に関するものに限定されます。



PIAJ会員



PIAJ会員関連の発表

- ◆情報管理 57巻(3号)2014年 p196-198
つなぐれインフォプロ 第9回 松浦 智佳子
- ◆SAR News No.24 Apr.2013 p.7-
PubChem BioAssayの活用とインフォプロの協業 小島史照,山本富美子,中村規子,若林宏明
- ◆薬学図書館 58巻(2号)2013年 p144-154
PubChem BioAssayの有用性薬理活性と毒性データを中心に:2007年調査とその後について 小島史照,山本富美子,中村規子
- ◆情報管理 55巻(6号)2012年 p455
図書紹介:『検索と発見のためのデザイン エクスペリエンスの未来へ』 小河邦雄
- ◆情報管理 54巻(3号)2011年 p135-143
ラクオリア創薬株式会社におけるリンクリゾルバを活用した情報提供について 村瀬 菜都子, 若林 宏明
- ◆ファルマシア Vol. 46 (2010), No. 12 p.1149-1154
ライフサイエンス系データベースシステムの現状と将来展望 小河邦雄
- ◆情報管理 Vol. 53 (2010), No. 8 p.441-448
アステラス製薬株式会社つくば研究センター(御幸が丘)の新図書室について 山本 富美子, 隈 千枝, 若杉 茂, 宮内 洋一, 島崎 憲彦
- ◆情報管理 53 巻(5号)2010年 p.273-274
インフォプロってなんだ? 私の仕事、学び、そして考え 第16回 松浦智佳子
- ◆情報管理 53巻 (2号) 2010年 p.88-101
これからインフォプロを目指す人たちへ リレーエッセー「インフォプロってなんだ?」の執筆者からのメッセージ 小島 史照, 佐藤和代, 土谷 久, 柳 一美
- ◆情報管理 52巻(9号)2009年 p568-571
ウェブ, 検索, そしてコミュニケーションをめぐる旅 小河 邦雄
- ◆情報管理 52巻(8号)2009年 p475-486
ClinicalTrials.govに登録された臨床試験の分析 中村 文胤
- ◆情報管理 52 巻(7号)2009年 p.417-418
インフォプロってなんだ? 私の仕事、学び、そして考え 第7回 中江貴彦
- ◆情報管理 51巻(6号)2008年 p408-417
ライフサイエンス分野における引用文献データベースの比較と有用性(前編)—Web of Science対Scopus— 松浦 智佳子, 小河 邦雄
- ◆情報管理 51巻(7号)2008年 p499-510
ライフサイエンス分野における引用文献データベースの比較と有用性(後編)—Web of Science対Scopus— 松浦 智佳子, 小河 邦雄
- ◆薬学図書館 52巻(3号)2007年 p234-244
Web2.0時代の医薬情報サービスとGoogleの活用 小河邦雄
- ◆薬学図書館 52巻(2号)2007年 p171-177
各国特許調査機関での先行技術調査 中江貴彦
- ◆薬学図書館 52巻(2号)2007年 p163-170
製薬企業研究企画での医薬品開発データベースの使用例 加藤和夫
- ◆薬学図書館 52巻(2号)2007年 p156-162
PubChemの有用性③ 活性情報
「PubChem BioAssayの特徴と創薬情報としての有用性」 小島史照, 中野敦子, 清玄寺雅媛, 中村文胤, 竹田英樹
- ◆薬学図書館 52巻(2号)2007年 p146-155
PubChemの有用性② 薬理作用 「Pharmacological Action の付与状況とその応用」
網本淳子, 石田修, 松尾政芳, 中江貴彦, 中島尚志, 羽田幸代, 齊藤郁, 鄭兆雄, 市岡剛宏
- ◆薬学図書館 52巻(2号)2007年 p146-155
PubChemの有用性② 薬理作用 「Pharmacological Action の付与状況とその応用」
網本淳子, 石田修, 松尾政芳, 中江貴彦, 中島尚志, 羽田幸代, 齊藤郁, 鄭兆雄, 市岡剛宏
- ◆薬学図書館 52巻(2号)2007年 p140-145
PubChemの有用性① 緒論, 毒性, 新規性
「日本製薬情報協議会関西支部勉強会での試みと毒性・新規性調査への適用の可能性」
石田修, 中島尚志, 中村規子, 本田直樹, 羽田幸代, 西野順子, 中尾泰美, 寺浦一正, 齊藤郁, 鄭兆雄, 市岡剛宏
- ◆薬学図書館 51巻(4号)2006年 p287-298
PubMedとMEDLINEとその他のデータベースの比較 小河邦雄
- ◆薬学図書館 49巻(2号)2004年 p120-140
世界のWEB版医薬品集 中野敦子
- ◆薬学図書館 45巻(2号)2000年 p158-164
治験薬データベースCD-ROMのデータの取り扱いについて:開発化合物他社状況一覧表作成の試みと操作上の問題点
浜崎泰嗣

